



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第18回 子離れの季節

BI 0 チェック いいね! 1 Tweet

この6月に都内のインターナショナルスクールを卒業した息子が、10月からイギリスの大学に留学することになりました。

つい昨日までヨチヨチ歩きのお赤ちゃんだと思っていた子が、あれよあれよという間に成長して、来週からは飛行機で12時間もかかる遠い異国で一人暮らしをはじめ。

「いつの間に、こんなに大きくなったんだろう」

と驚きながら、長かったようで短かった18年間を、今しみじみと振り返っています。

息子との出逢いは、“つわり”からはじまりました。そうです。息子を身籠っているあいだの私は、つわりがひどく、出産5分前まで絶えず胃がむかむかしているような悲惨な状態だったのです。

その6年前に第一子である娘を身籠ったときには、つわりなんてこれっぽっちも経験しなかったというのに。まるで6年前に楽をしたツケがまわって来たような仕打ちでしたが、こればかりは時が解決してくれるのを待つしかありません。

そういう意味では、ちょっぴりつらい十月十日(正しくは40週間)でしたが、私はその間ずっと、おなかの赤ちゃんに向かってこんなことを話しかけていました。

「もしもし。おなかの赤ちゃん、聞いていますか。あのね、昔の人の話では、人間が一生のあいだに出来る親不孝の量は、決まっているんだって。“デスデス君”のおかげで、ママは今、つわりです。これだけママを困らせているのですから、デスデス君が一生を通じて使える親不孝の量は、もうそろそろ終わりだよ。だから、生まれたあとのデスデス君は、とって親孝行な、良い子になります。ママが保証します」

“デスデス君”というのは、当時5歳だった娘と一緒に考えて、空想の世界における赤ちゃんの名前でした。

その空想の世界では、おなかの赤ちゃんは“ドクター・デスデス”という名前の天才科学者で、ノーベル賞級の何か凄い実験をしている、ということになっていました。

そして、実験が失敗するたびに「失敗デス～」と言いながら薬品を捨てるので、そのためにママが今つわりになっているのだ、というのが、娘と私がふたりで勝手にこしらえた物語だったのです。

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

高橋佳子の最新
作／三宝出版

奇跡の実話の物語。人生の解答をあなたに 未来は変えられる！ 絶賛発売中

sampoh.co.jp



幼い娘にママのつわりを心配させないためにも、生まれてくる弟を嫌いにさせてしまわないためにも、そして何より、私自身が苦しいつわりを笑って乗り切るためにも、この空想ごっこは効果テキメンでした。

娘は毎日のように、私のおへそのあたりからデスデス君に向かって、

「デスデス博士、そろそろ実験はやめて、お外に出ておいで。お外はとっても楽しいよ。私のおもちゃを全部あげるから、一緒に遊びましょう」

と話しかけ、弟の誕生を、それは楽しみに待っていてくれましたから。

実際、赤ちゃんが生まれてからの娘は、まるで小さなママのように甲斐甲斐しく弟の世話をしてくれるようになり、18年経った今でも、ふたりはほんとうに仲の良い大親友のような姉弟です。

さて、小さかった頃の息子は、女の子と見間違われるようなやさしい顔立ちで、親鳥のあとを追うヒヨコのように、いつでも私の後ろをトコトコついて来ました。そして、瞳をウルウルさせながら、

「大きくなってもママちゃん(私のこと)のそばにいるよ。絶対に、どこへも行かないからね」

と言うのです。

こんな殺し文句を言われた日には、たまったものではありません。「母親冥利に尽きる」と申しましょうか。そんな幸せな想い出があるだけで、残りの人生を生きてゆける。そんなふうに思えるほど、小さな子どもからもらう喜びは大きなものでした。

息子が幼い頃は、できる限りたくさん時間を一緒に過ごすようにしました。これは、娘が小さかったときにもしたことです。

子どもたちは遅かれ早かれ独り立ちをして、自分の道を自分の足で歩きはじめるでしょう。一緒に過ごせる時間なんて、せいぜい高校を卒業するまで。いずれは、一緒にご飯を食べるのにも“アポ”を取らなければならなくなるのです。

そのことを、私は自分の経験から知っていました。なにしろ私自身、故郷(長野市)の高校を卒業したあとは、

「地元にも大学があるのに、なぜ都会へ行く？」

と渋い顔の父を説得して、東京の大学に入学。そのあとは、さらに父の反対を押し切って(ただし学費は親に迷惑をかけず、全額自分で稼いで)オーストラリアの大学院に進学してしまいましたから。

このとき、反対ばかりする父とは対照的に、母が一言も文句を言わずに、

「後悔しないように、思いきり勉強しなさい」

と味方してくれたことも印象的でした。母だって、娘が遠くへ行ってしまうことは淋しかったに違いないのですが、何も言わずに送り出してくれた。母親って凄いなと思いました。

そんなわけで、子どもには子どもの道があるということ、自分自身の人生を通じて痛感していた私でしたので、自分の子どもたちにも、もちろん自由な道を歩かせる覚悟でした。

だからこそ、子どもたちが高校を卒業するまでの18年間は、なるべく一緒にご飯を食べ、世間話でいいから毎日の会話を楽しみ、一緒に時間を過ごす。これを生活のモットーにしたのです。

育児を優先するためにお断わりした仕事もいくつかありました。でも、だからと言って「キャリアを棒に振った」とか「もったいない」とは思いませんし、そのことをこれっぽっちも後悔していません。

実際、子どもを産んで育てることは、この世でいちばん素晴らしい仕事だと思います。そ

の、かけがえのない仕事を後回しにしてまで優先すべき“キャリア”なんて、果たしてこの世に存在するのでしょうか？

そうこうしているうちに時間は過ぎゆき、ついに、息子が旅立つ日がやってきました。息子は生まれつき理系に強く、小学生のときには算数のクラスを3学年飛び級していましたが、大学では理学部に進み、化学を専攻することになりました。そこは、これまで14人のノーベル賞受賞者を輩出しているバリバリ理系の大学で、思いきり勉強に没頭できる環境のようです。

それにしても不思議ですよ。18年前、娘との空想ごっこのなかで、私たちはおなかの赤ちゃんを“デスデス博士”と呼んでいました。もちろん、それはただの冗談でしたが、息子はだんだん本当に“デスデス博士”に近づいてきたみたい。まさか、おなかのなかの赤ちゃんが私たちの空想ごっこにインスパイアされたわけではないでしょうが……。

来週は家族全員で成田へ行き、ハイタッチで賑やかに息子を送りだそうと思っています。

◀ [第17回 35年目の同窓会](#) [第19回 若い時の苦労は買ってでもしろ](#) ▶

山田 真美（やまだ・まみ） プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士（高野山大学）。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学（豪）でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

高橋佳子の最新作／三宝出版

奇跡の実話の物語。人生の解答をあなたに 未来は変えられる！ 絶賛発売中 sampoh.co.jpへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



[永代供養墓 密厳霊塔](#)
[しいなまち みとら](#)
[こんごういんキッズ](#)
[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)
[唱えてみよう!](#)
[たいけんしてみよう!](#)
[東京お寺めぐり](#)
[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)
[仏教いちねんせい](#)
[まんが 小坊主くん!](#)
[ぶつ仏クイズ](#)
[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)
[金剛院NewS](#)
[金剛院について](#)
[金剛院の四季](#)
[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)
[おすすめリンク集](#)
[バックナンバー](#)
[サイトマップ](#)

© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

東京大学と5年をかけて共同開発

臨床試験で10種類以上の病気や症状への改善効果を確認/今だけ無料で資料配布中 brolico-research.jpへ進む

